

NPAFC 公開市民講座の概要

えづれ むつこ うらわ しげひこ
江連 睦子・浦和 茂彦

NPAFC 公開市民講座「サケは海からの贈り物 - 海洋生態系におけるさけ・ます類の保全と利用 - 」が平成 16 年 10 月 23-24 日に札幌コンベンションセンターにおいて、NPAFC、水産庁、水産総合研究センター及びさけ・ます資源管理センターの主催により開催されました。

講演会当日は悪天候にもかかわらず市民の皆様およそ 150 名が参加され(写真 1)、NPAFC 年次会議に出席した国内外の研究者 6 名(写真 2)による講演を熱心に聞いていただきました。

まず、NPAFC 科学統計調査小委員会の議長を務める Loh-Lee-Low 博士(米国海洋水産研究所)より開会の挨拶と NPAFC の紹介があり、サケの不思議な一生について綴った自作の詩が朗読されました(次頁写真参照)。続いて、上田宏教授(北海道大学)による講演では、サケがどのようにして大回遊し、最後には繁殖のため母川に回帰するのが解説されました。Dick Beamish 博士(カナダ太平洋生物研究所)の講演では、地球温暖化に向け気候変動がサケ資源へ与える影響予測のための研究の必要性が力説されました。帰山雅秀教授(北海道東海大学)は、海洋と淡水の生態系におけるサケの様々な役割について説明し、生態系をベースとした資源管理の重要性とその具体的方策を提示しました。眞山紘博士(さけ・ます資源管理センター)は、日本におけるサケの人工増殖と定置網漁業の資源管理の有効性とその多様な食文化について紹介しました。Gerry Kristianson 博士(BC 州スポーツフィッシング研究所)は、カナダの人々がレクリエーション、教育およびボランティア活動を通して、どのようにサケと身近にふれあっているかを紹介しました。そして最後に北海道区水産研究所の浮永久所長により講演の総評と質疑応答が行われました。

また、講演会と併せて 10 月 23-24 日の 2 日間にわたり開催された合同パネル展には、200 名近い来場者がありました。展示内容としては、サケのふ化放流や資源管理と生物多様性保全、回遊経路と海洋生活、耳石温度標識などに関する研究成果(写真 3)のほか、食料としてのサケの利用法や豊平川におけるサケと市民との交流、サケと伝統文化等をテーマにしたパネルの展示やパンフレットの配布、さらには、千歳市民ボランティアの方々によるサケの皮細工の実演講習会も行われ(写真 4)、多くの来場者を惹きつけました。

市民講座開催にあたっては、北海道、札幌市をはじめ多数の関係機関からご支援いただきました。関係者各位、そしてご参加いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。



写真1. 講演に聞き入る参加者。



写真2. 6人の講演者。左からGerry Kristianson, Dick Beamish, Loh-Lee Low, 上田 宏, 帰山雅秀, 眞山 紘博士。

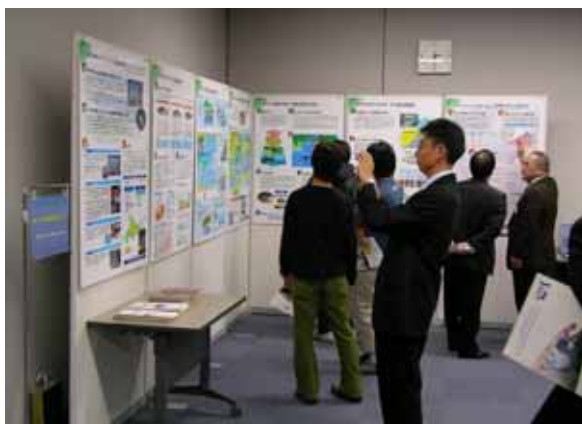


写真3. さけ・ます資源管理センターのパネル展示。



写真4. 千歳サケのふるさと館ボランティアによるサケの皮細工の実演会。

サケの不思議
ローリー・ロウ

サケの生涯は複雑だ。だが、目指すはただ一つ
毎年、夏になり、いったん情熱の炎が燃えだすと
サケは、川の上流へひたすら溯っていく
強風を、峡谷を、岩場のよどみを越え
熊や鷲、そして釣り人からも身をかわし
来る日も来る日も、ぶつかり、おしあい、上流へむかう
途中、ちょっとだけ休憩をとり
ほとんど燃え尽きるまで、卵と精子に栄養を送り込む

清らかな上流で、メスは気に入ったオスを見つけ
体をくねらせ、砂利を掘って、巣をつくり、そこに卵を産み落とす
美しい相手を口説き、なすべき義務を全うし
無数の泡につつまれ、死んでゆく
生命とは、どうしてこうも厄介なのかと
物思いにふけりながら...

The Amazing Salmon
rendition by Loh-Lee Low

The Salmon has an amazing life; despite its fervent one track mind
Once every summer so full of fire, they swim upstream higher and higher
Over gales and dales and rocky pools; dodging bears and eagles and anglers too
Jostling upstream for days and days; resting a little along the way
Churning fats to eggs and sperms; until the salmon is nearly burnt

In upper still waters the salmon will lie; the female finding her favorite guy
Digging and wriggling the pebbles to rest; that is where the eggs shall rest
Having wooed their salmon beauty; now having done their salmon duty
In pensive mood they'll drown in bubbles; wondering why life is so damn much trouble